

シンポジウム

# コロナ禍における死生学の課題

2021年10月23日(土) 14:40-17:50

司会 奥山倫明

東洋英和女学院大学教授  
死生学研究所所長

発題1

## 佐藤 泰子

さとう やすこ

京都大学大学院人間・環境学研究所  
人間社会論講座 精神分析学研究室研究員



「妖怪人間ベムはなぜ人間になりたかったのか  
—「死」からはじまる「生きる意味」と  
間(あわい)—」

### 内容紹介:

死ぬことかできない妖怪たちの会話(欠)のようなものがあります。「ねえ、おいらたちも人間になったらいつか必ず死んじゃうだよ、それでも人間になりたいって思う?」とベロカベムに聞きます。ベムは「ああ、やっぱり、おれは人間になりたい」と答えます。

死ぬことかできない妖怪は「死ぬ運命であっても人間になりたい」と願います。ここに「死ぬからこそ、生きる意味がある。死なないなら、生きる意味はないのではないう」という問いが浮上ってきます。もし、永遠に生きるならば、「今、ここ」には、もはや意味がなくなります。いつか終わりがくるから、「今」の意味が立ち上がってきます。限りある時間を精一杯生きようとする我々は、生きる意味をなんとなく感じているのかもしれないです。しかし、そこに疑問が残ります。そもそも生きる意味って何なのか……。人は人間(あわい)を生き、そこに自己の存在の意味、居場所を探します。そしてついに「生きる意味」がその輪郭付けを示してぼんやりと立ち上がってきます。コロナ禍にこそ間(あわい)の意味を考えたいと思います。

### ■プロフィール

2009年3月京都大学大学院 人間・環境学研究所 博士課程修了。京都大学博士(人間・環境学)取得。現在、京都大学大学院人間・環境学研究所 人間社会論講座 精神分析学研究室研究員。京都大学、京都看護大学、聖泉大学、京都経済短期大学、大阪人間科学大学等で死生学、医療倫理等の授業担当。研究テーマのキーワードは、「死生」「ケア」「倫理」である。それらについて研究していくなかで、「人が苦しいとはどういうことか」についての解明が必要であることに気づく。そこで、「人はなぜ、苦しみ、さらにそこから、どのようにして新しい歩を踏み出すのか」を構造的に理解するシエマ「苦しみと緩和の構造」を構築した。「苦しみと緩和の構造」をもとに人間の苦しみと言語の関係について哲学、精神医学、精神分析をベースに研究し、ケアのあり方を探っている。

### ■主要業績

著書:『死生の臨床人間学—「死」からはじまる「生」』晃洋書房、2021年5月。『苦しみと緩和の臨床人間学—聴くこと、語ることの本当の意味—』晃洋書房、2011年6月。『患者の力』編著、晃洋書房、2012年10月。『ヒューマンケアと看護学』共著、ナカニシヤ出版、2013年11月。『精神医学時代のメンタルヘルス1』共著、ミネルヴァ書房、2019年10月。  
論文:「終末期患者のスピリチュアリティとは何か—スピリチュアルペイン変容の現象学的分析—」『臨床死生学会』Vol.12 No.1 2007年、他。

発題2

## 新村 秀人

にいむら ひでひと

東洋英和女学院大学 人間科学部教授  
死生学研究所 幹事



「精神医学から見たコロナ禍と死生学の課題」

### 内容紹介:

コロナ禍での死別では「死に目に会えなかった」「葬儀ができなかった」「なくなったの妹のせいで」といった遺族の悩み・苦しみか聞かれます。死を実感できない「あまいな喪失」は、未解決の悲嘆であり、継続するトラウマともいえます。あまいな喪失を提唱したポーリン・ボスは、あまいな喪失と向き合う方法として、①意味を見つける、②人生を航取りする感覚を調整する、③アイデンティティーを再構築する、④相対する感情を正常なものに見出す、⑤愛着の形を見直す、⑥新しい希望を見つける、を挙げています。これを手掛かりに、コロナ禍でのあまいな喪失へどのように対応したらよいか考えたいと思います。

### ■プロフィール

北海道大学法学部法学課程卒。和歌山県立医科大学医学部医学科卒。慶應義塾大学医学部学位授与(医学博士)。精神科医。精神保健指定医。産業医。川崎市立川崎病院精神神経科、慶應義塾大学医学部精神神経科学教室専任講師を経て2021年より東洋英和女学院大学人間科学部教授、死生学研究所幹事。専門:精神医学。日本臨床死生学会会員、日本社会精神医学会理事、日本森田療法学会理事。

### ■主要業績

共著:新宿区精神障害者家族会・新宿フレンズ役員会編『心の病気の回復は家族の学びから 新宿フレンズ50年の道のり』ラゲーナ出版、2021年、中村敬編『短時間で行う老年期うつ病の精神療法的アプローチ』星和書店、2018年、最近の論文に「自殺企図(未遂)の私の治療」『日本医事新報』5062、日本医事新報社、2021、「超高齢者の精神疾患」『BRAIN and NERVE』72(12)、2020

### コメンテーター

藤本拓也

(金光教国際センター次長・宗教学専攻)

佐藤啓介

(上智大学大学院実践宗教学研究科教授・死生学専攻)

### □オンライン開催

お申込みは死生学研究所HPから

□お申込み締め切り

10月20日(水) 17時

□先着100名様 □参加費無料

□お問合せ 死生学研究所

shiseigaku@toyoeiwa.ac.jp

お申込み

